CEOメッセージ

株式会社 東芝
代表取締役 社長執行役員 CEO
島田　太郎

**「人と、地球の、明日のために。」という経営理念のもと、
創業から受け継がれるベンチャースピリットを胸に、
培ってきた発想力と技術力を結集し、「人と自然が共生する社会」
および「安全・安心な社会」の実現を目指していきます。**

2025年、東芝は、これまで多くの方々に支えられ、創業150周年を迎えました。東芝の源流となる田中製造所を創業した発明家・田中久重が掲げた看板の「万般の機械考案の依頼に応ず」と、もう一つの源流である白熱舎を創業した工学博士・藤岡市助の「至善」は、これまで東芝のあり方を定義し、東芝が続いてきた理由となってきたと思っています。常に新しいものに挑戦し、世の中にないものを自らの知恵と技術でつくり上げ、これが、世の中のためになってきたということは、東芝の経営理念「人と、地球の、明日のために。」に通じていると思っています。

一人ひとりの生活、そして地球が持続可能であるためには、企業は、複雑化・深刻化する社会課題を長期的な目線で捉え、事業を通じて解決することが必要です。これが企業価値の向上にもつながります。現代は多くの人が携帯端末で情報をやり取りし、産業においてもIoTやセンサーの充実で豊富な情報が集積されています。そして、AIの進化とその急速な普及により、産業構造は大きく変化しています。この時代に私たちが生かすべきは「データの力」であり、デジタルエコノミーの発展を機会とできるか否かが企業の競争力をも左右します。

東芝グループが目指すのは、「人と自然が共生する社会」および「安全・安心な社会」の実現です。この実現に向けて、創業から受け継がれるベンチャースピリットを胸に、培ってきた発想力と技術力を結集します。東芝の強みであるエネルギー、デジタルインフラ、デバイス&テクノロジーの各事業を通じて、生成AIなどのデジタル技術を駆使し、自然や社会の「再生（Regeneration）」と「循環（Circulation）」の視点から社会課題の解決に取り組み、サステナビリティ経営を推進します。ステークホルダーと共に「新しい未来を始動させる。」ため、東芝は、これまで培ってきた量子応用技術などの強みを活かし、社会課題の解決に取り組み、安全・安心で人と自然が共生する社会の実現を目指してまいります。

企業価値の持続的向上にあたっては、信頼を損なう行いは絶対に許さないという強い自覚のもと、生命・安全とコンプライアンスをあらゆる経営課題に優先させます。また、国連グローバル・コンパクト署名企業として、倫理的で透明性のある経営基盤の構築のために、E（環境）S（社会）G（ガバナンス）の強化に努め、さまざまなステークホルダーと連携し、豊かな価値を創造します。そして、SDGsの10のゴールに注力し、各ゴールに対するポジティブ・インパクトの最大化とネガティブ・インパクトの最小化に取り組み、すべての企業活動を通じてその達成に貢献します。

人と、地球の、明日のために。

東芝グループが注力する10ゴール

副社長メッセージ

当社は、「本来東芝があるべき姿」、すなわち、世の中の変化や社会課題に技術の力で応え、GXやDXで社会に貢献していく会社を目指すべく、2024年5月、「東芝再興計画」として新たな中期経営計画を発表しました。

「東芝再興計画」の1年目にあたる2024年度は、早くもこの計画で掲げた各種施策による経営改革効果を確認することができました。2024年度の営業損益は、全セグメントで大幅増益を実現し、前年同期比で約5倍となり、メモリ事業を除いた事業ポートフォリオとなって以降で、過去最高を達成しました。価値に見合う形での価格設定の見直しや、固定費削減等の経営改革・自助努力の取り組みが着実に成果に結びついている状況です。「東芝再興計画」を策定し、筋肉質化に取り組んだ初年度は好調なスタートとなりました。

2年目となる2025年度に入ってからは、中長期的な成長への仕込みのフェーズに移行していくとともに、更なる収益拡大の実現に取り組み、財務目標である2026年度売上高利益率10%達成に向けた基礎を築いていきます。経営インフラ再構築の完遂とともに、固定費などの削減を通じた損益分岐点の引き下げ、収益力強化を通じて生み出されるリソースを人、事業、技術開発に十二分に投下することを目指しておりますが、具体的には送変電機器事業などの注力分野における増産投資や、量子技術などの革新技術の開発を行っており、中長期的な社会トレンドの変化を踏まえた東芝の総合力の発揮に向けて着実に実行してまいります。

2025年11月には、「東芝再興計画」の達成と中長期的な成長戦略の実現などを目的にビジネスセグメント制(BS制)を導入しました。当社が主戦場とする事業領域をエネルギーソリューション、デジタルインフラソリューション、デバイス&テクノロジーの3つに再定義し、それぞれのセグメント特性に応じた戦略を立案・実行してまいります。また、BS制の実効性を高めるため最高業務執行責任者(Chief Operating Officer: COO)を新設し、社長執行役員 CEOの島田と私がCo-COOとして就任しました。二人で緊密に連携し、それぞれのBSを統括する「ビジネスセグメント責任者(BS責任者)」と一体となって各事業部の状況を丁寧に把握しながら、事業部を跨るセグメント成長戦略の具体化、全社レベルでの成長市場へのリソースシフト、市場変化に対応したビジネスモデルの変革等を目指します。

私たちは地球規模でエネルギー不足や資源の枯渇、気候変動などの様々な課題に直面しています。当社は、強みである3つのビジネスセグメントの各事業を通じて、さらには生成AIなどのデジタル技術を駆使し、自然や社会の「再生(Regeneration)」と「循環(Circulation)」の視点から社会課題の解決に取り組んでまいります。そして、「人と自然が共生する社会」および「安全・安心な社会」の実現を目指します。

「東芝再興計画」で掲げた各種施策を着実に取り組むことで、中長期的な社会トレンドの変化を踏まえた東芝の総合力の発揮、企業価値向上を目指します。

株式会社 東芝
取締役　副社長執行役員
池谷　光司